

高美小学校内 TM だより

R7.7.7. NO.15

4年3組の算数の授業におじゃましました。

★見通しがもてる計画表★

ロイロノートを積極的に活用して授業をされていました。毎時、一枚のシートを作成し、これまでの学習がふりかえりやすく、また今が単元全体のどのあたりなのかを一目で見ることができるよう表を作っておられました。本時のシートは、問いと自分の考え、練習問題を書き込むことができるようになっており、パソコンの調子が悪い子がいたときのために紙に印刷したものも用意されていました。

★振り返ることができる掲示物★

教室の運動場側には、これまでの算数の学習で出てきた算数に関わる言語と、その意味をまとめたものを掲示されていました。学習の中で、「なんだっけ?」となったときに、掲示物を確認している様子も見られました。

★これまでの学習との関連付け★

本時の課題は小数を10倍、100倍にしたり、10や100でわったりしたときの仕組みを考えることでした。課題に向かう前に、稲山先生は「大きな数」の学習で使った位の表や、前時までの学習で、本時につながるものを全体で確認しておられました。はじめは「難しそう…」とつぶやいていた子も、少しずつ表情が変わり「いけるかも!」と課題に取り組み始めることができました。

★タブレットだからこそできること★

「位が変わる」って、慣れないうちは頭の中で処理するのは難しいです。そこで直感的に操作できるというタブレットの特性をいかし、位の表を使っておられました。これによって、数字はそのままで位が変わるということが、どういうことなのかつかむことができた子も多かったのではないかと思います。

★ふりかえり名人★

ふりかえり名人を活用した、ふりかえり活動をされていました。ふりかえりから次の時間の指導計画をたてると、より子どもたちの実態に寄り添った指導をすることができます。

～まとめ～

子どもたちの学ぶ環境を整えるため、様々な工夫をされていると感じました。加えて、子どもたちひとりひとりに、丁寧に声をかけておられました。粘り強く課題に取り組む力は、きっとそれらが合わさって身についていくのだと思います。稲山先生、4年3組のみなさん、ありがとうございました。

